

スマトラ沖地震

400人の死亡確認

ニアス島 シムルエ島 避難民2000人超す



29日、インドネシア・ニアス島グアンシトリで、崩れた建物から上がる煙(ロイター)

【ジャカルタ＝黒瀬悦成】インドネシア・スマトラ

島沖のインド洋で28日深夜(日本時間29日未明)に発生した大地震で、同国保健省は29日、震源に近い同島西方のニアス島と北方のシムルエ島で合わせて少なくとも400人の死亡が確認されたことを明らかにした。政府によるとニアス島では2000人以上の住民が家を失い避難民となっており、被害の全容が徐々に明らかとなってきた。(関連記事2・9・39面)

インドネシア赤十字社は「達すると推測される」との29日、ニアス島だけで、死 声明を発表した。AP通信者数が「1000人以上」とによると、同島ではすでに

「水・食料持てるだけ用意」

「島の家族と連絡とれない」

【ニアス島近海、フェリタ。】

島出身の主婦キキさんは、「家族とはまる一日、連絡がとれないまま。持てるだけの水と食料を用意したのだが……」と不安げに話す。フェリー乗組員のソ

と顔をくもらせた。

1「ニアシンタ号」船上に花田吉雄】北スマトラ州シボルガから対岸のニアス島に向かうフェリーに記者は29日夜、乗船した。木造船をいっぱいにした約200人の乗客のほとんどは、島に残した家族の安否を気に、水や食料を手にも帰る出稼ぎの人々だった

ワノロさん(25)も島に家族がいるが音信不通。「今回は、津波が襲ってこなかった分だけは、ましなのだが」島へと向かう。



約330遺体が収容されたという。

ほとんど破壊された。ニアス島の空港は滑走路や管制施設が破壊され使用困難となったため、政府や外国の援助機関・団体の同島入りが遅れている。インドネシア赤十字社の緊急医療チームは29日、軽飛行機を使ってニアス島とシムルエ島への着陸に成功したが、スマトラ島のメダンとニアス島を結ぶ唯一の定期航空便は欠航している。政府はニアス島に最も近いスマトラ島のシボルガ市を拠点に、ヘリコプターで被害の実態を調査した上で、空と海から食料や医薬品などの救援物資を届ける方針。

島行きの船

スマトラ沖地震

「南側でさらに発生も」

日本人研究者が警告

インドネシア・スマトラ島沖で28日起きた地震について、英国の研究グループが3月17日付の英科学誌「ネイチャー」で、「マグニチュード(M)7.5-7.5の地震発生が迫っている」と警告していた。(本文記事一面)

英グループの「予言」踏まえ

警告していたのは英アルスター大学のグループ。昨年12月の地震によって、震源に近かったスマトラ島北西沖の断層が大きく滑ったため、南隣の動いていない地域との境目に大きなひずみ蓄積し、危険な状態になっている」と主張していたが、今回の震源は指摘さ

れた危険地帯とほぼ重なっていた。その一例として日本の南海地震と東海・東南海地震も紹介、「同時もしくは5年以内に続いて起きる形を繰り返してきた」と紹介している。

こうした特徴を踏まえ、日本の研究者も「今回の地震のさらに南側で今後、連続して大きな地震が起る恐

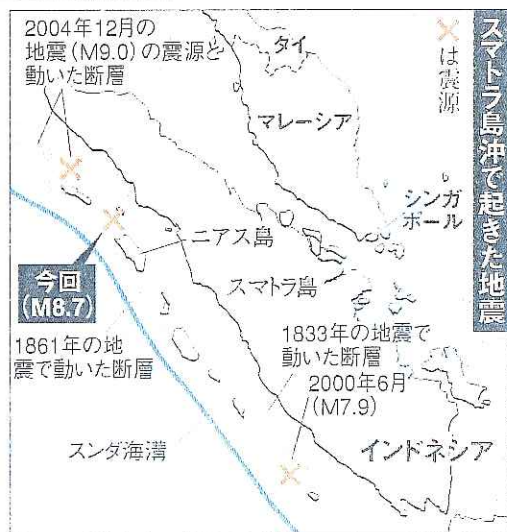
れがある」と注意を呼びかけている。

建築研究所(茨城県つくば市)の八木勇治研究員は「今回動いた断層は前回の地震と重なっておらず、余震ではなく『双子地震』」といい、今回の地震の影響

断層300キロにわたり滑る

今回のスマトラ沖地震では、断層が南北約300キロにわたって滑ったことが、建築研究所(茨城県つくば市)の八木勇治研究員

の解析でわかった。また東側のユーラシアプレートが、西側のインド・オーストラリアプレートに乗り上げる形で、最大約10センチ



で、海底から深さ4キロ、10センチの浅い部分が10センチほど滑った。

これらのデータからも、今回の地震の規模が、昨年12月にインド洋津波を起こした地震の5分の1から10分の1程度だったとみられる。揺れが続いた時間も約150秒と、前回(400秒)より短かった。